

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192900163		
法人名	社会福祉法人たくみ		
事業所名	グループホームえぶりわん鶴瀬Nisi		
所在地	埼玉県富士見市鶴瀬西2-8-25		
自己評価作成日	令和5年2月25日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・R22年からGHはコロナに40名近く感染しました。その間すべての職員は、看護の支援体制に従い徹底したお客様へのサポートを行いました。その結果、重症者や死亡者も出さずに過ごせました。はじめは感染者を居室での対応としましたがいつの間にか車いす以外のの方は全員フロアにいる状況でした。職員の一致団結とご利用者を守ろうとする気持ちに感謝しています。・今年度は、通常の生活に随分と制限がかかりなかなか楽しみを見つけることができずでしたが、お食事やおやつ作りは月に数回一緒に楽しく行えました。またご家族との面会も窓越し等や電話、ズームなどを活用して実施しました。
 ・ご利用者様は2度にわたるコロナ発症の中、外出や家族との面会もままならずストレスを感じていたと思います。その中で職員は話を聞き楽しめることを時には個別ケアで、集団ケアで対応しました。ケアプランの作成も職員、看護、ご本人、ご家族等の意見を聞きながら職員がプランを共有しました。運動会、クリスマス、豆まき、お雛様などの催しを施設内でして楽しむ時間を作りました。
 ・医療との連携は、コロナ関係もありいつもより密に先生にはご支援をいただいた用です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・入居者が少しずつ重度化される中で「最期まで一緒に関わりたい」という職員の気持ちを大切に、介護の様々な工夫が図られている。その中でも、コロナ禍で様々な制限がある折、最大の取り組みである地域食堂（子供食堂）は継続して開催され、地域との交流が続けられている。また、入居者や家族に密に関わるよう取り組み、事業所が家庭の延長上の場所として、入居者が安心して過ごしていただけるよう支援がなされている。
 ・運営推進会議は、家族、市担当者、民生委員、町会長が参加され、事業所側からはすべての業態の職員が出席し、施設の取り組みと地域の動向などの情報交換が行われている。
 ・目標達成計画については、令和3年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策において「夜間帯の対応」を継続的に取り上げ、消防への通報システムの活用、緊急連絡網の確認などが行われ、成果も得られたことから目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で法人理念を確認し実践につなげている。コロナ禍のため施設内全体の集会が行えなかったため、動画を作成し各事業所で見守る時間を設け理念を共有し実践につなげている。	入居者が少しずつ重度化される中で「最期まで一緒に関わりたい」という職員の気持ちを大切に、介護の様々な工夫が図られている。「傾聴する心」を持った対応がなされ、声かけも行われ、家族へのフォローも実施され、理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事には地域の方を招いています。また、地域の行事には積極的に参加している。地域食堂(子ども食堂)を通してご利用者や地域の方へ必要な情報を提供しよう心掛けている。今年度は、コロナ禍のため行事の参加、招待は自粛している。	日常的には近隣の散歩時の挨拶を中心に交流され、「地域食堂」を通して地域とのつながりが図られている。今後も地域に開かれた事業所を目指し、つきあいの幅を広げるよう取り組むことを職員間でも話し合われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者や地域の方に見学や問い合わせ時に必要な情報を提供している。また、認知症理解のための講習等を開催し、相談できる場も作るよう心掛けている。今年度はコロナ禍のため自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催し、委員会の方から地域の情報や意見、ご指導をいただきサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、家族、市担当者、町会長や民生委員が参加され、現状に合わせた議題を取り上げ、情報交換がなされている。特に民生委員や町会長からは地域全体のことが話され、事業の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認すべきことはその都度市の担当者に確認の連絡をしている。今年度は、実地指導の場でも実情、サービス内容を見ていただき意見を頂いている。	運営推進会議にも参加いただき、日常的には介護保険の運営や成年後見人制度などについて相談され、アドバイスをいただいている。また、コロナ禍での防護服の支給を受けたり、ワクチン接種状況を確認するなど連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルの作成と定期的な委員会の開催、内部研修を行っている。玄関の施錠については、利用者の様子を確認しながら希望時の開錠、できる限りの開錠に努めている。	基本的に身体拘束は行わず、フロア会議などで看護師による勉強会などが開かれている。特に職員が一人になる夜間帯の対応などのチェックも行われ、また、自分達が気が付かないことを新聞などで確認する取り組みもなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルの作成と内部研修を行っている。その内容を職員間で共有し、管理者会議や職員会議で虐待がない環境作り、防止の話し合いを行い実践に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政のパンフレットを準備し必要に応じていつでもご案内できるようにしている。 施設利用者には後見制度を利用している方もおり、電話で話し合いの場を設けている。(コロナ禍のため対面は現在は行っていない。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、不安を受け止めるようにしている。質問等には納得いただけるまで説明し、明確な答えが出せるよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議で家族の代表の方からは、率直な意見をいただき、業務に反映しています。 利用者家族には、面会や電話の際に話す機械を持ち意見をいただいています。	「～～に会いたい」、「家族が来ないから寂しい」など、認知症であっても入居者の訴えには居室担当者を中心に家族と連絡を取り合い対応されている。家族からも「面会が少なくなって」という意見が多く出され、用事で来所された時などに短時間でも顔を見ていただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、委員会を定期的開催し、意見を出し合い検討し、結果を共有している。	毎月のフロア会議の中で、職員からはケアについてや身体拘束、感染症防止などの意見が出されている。また、職員は入居者それぞれにやってあげたいことなどを発言し、話し合っ職員同士で対策の確認も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、日頃から積極的に声をかけ体調や精神面の確認をし、やりがいを持って業務につけるよう講習などを提案している。 不満があればその都度、解決、改善できるようにし、働きやすい環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修、勉強会を実施している。その内容について月1回のグルホ会議でフィードバックできるよう努めている。(コロナ禍のため外部研修は参加していない。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業連絡協議会の参加、他事業者が主催する勉強会への参加を積極的に行っている。その内容をサービスの質の向上に活かせるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から本人の意向を聞き取り、職員全員で検討しケアにつなげている。ケアを通してコミュニケーションをとり、気持ちを表出できるような関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から家族の意向や在宅時の様子を聞き取り、在宅に近い生活を提案している。入所後は、可能な限りの面会、様子を伝える電話を行いコミュニケーションをとれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より家族、本人の意向を聞き取り必要なサービスを提案し了承している。入所後も必要に応じて家族の協力をいただくことを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を考慮しながら家事作業(掃除や食器の片付け、洗濯たたみなど)を職員と共にしている。一方的な支援にならないよう言葉づかいや関わりかたに細心の注意を払っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を考慮したうえで本人の情報や様子を積極的に提供し、話し合い、協力を頂いている。本人とも可能な限り話し合いが出来るよう面会の場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は親戚や友人の面会、地域のイベント参加等を行っていた。現在は家族のみの面会、外出は受診のみにしている。	「自分たちのことを忘れないように」という家族の気持ちを大切に、会う機会を作り、ベランダ越しの面会なども企画されている。芸達者な職員が昔馴染みの懐かしい歌を披露し、各フロアを回って入居者に楽しんでいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士で過ごせるように座席配置には配慮している。利用者間のトラブルには、職員が双方の話を聞き対応している。トラブルになる前に職員が間に入り仲介を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	適宜以前の担当ケアマネ、家族に本人の心身状態やサービス内容の情報をいただき、サービス提案や相談をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所してから本人や家族と話し合いの場を作り、カンファレンスなどでケアプランを見直しをし、本人の望む生活が送れるよう努めている。	現場では入居者同士の様々な話から、一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。また、「目の動き」などから、入居者の気持ちに気づくこともあり、挨拶や声掛け、笑いをとる冗談なども大事にされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族、ケアマネージャーから聞き取りを行っている。 また、可能なかぎり実調に伺い、コミュニケーションを通しての情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録やケアチェック表、業務日誌等への記録で職員間での情報の共有を行っている。 定期的な職員会議で居室担当者から現状を伝えてもらい、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、アセスメントを行ったうえで、他職種(ケアマネ、看護師、栄養士、介護士)によるケアカンファレンスを行い、計画作成を行っている。	入居者の出来ることや役割を盛り込み、「入居者を孤立させないプラン」を作成し、わかりやすく具体的な表現がなされている。入居者のニーズから目標、さらにサービス内容までの一貫性があり、家族の要望などにも十分配慮がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やケアチェック表、業務日誌等への記録で職員間での情報の共有を行っている。 また、月末にはサービス提供チェック表を見直し、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設のため必要に応じて他事業所と協力、相談する等柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練の参加、ボランティアとの交流を行っていた。施設内の行事に地域の方を招き交流を図っていた。 コロナ禍のため現在は地域交流は自粛中。町会、民生委員とは連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医の定期的な回診があり、内服処方も行われている。 専門医の受診は、家族と相談し、情報提供書持参で受診を行っている。	外科や眼科などのかかりつけ医への受診には職員(看護師)も同行され、看護記録ノートや申し送りや医師とのやり取り、薬の変更などを確認されている。日常的には協力医療機関との連携を図られ、夜間や時間外でも連絡が取れ、入居者の健康と安心が保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、看護師と情報を共有し体調管理につなげている。 状態変化や不安時は、夜間においても連絡が取れる環境にあり、相談や指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、受診時は、看護師が同乗し、情報提供書を通し病状だけでなく生活面の情報も医療機関へ提供している。入院後から相談員と頻回に連絡を取り、退院に向けて情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態観察により状態変化があれば、看護師と担当医と連携をとり家族とケアカンファレンスを行い、方向性を決めている。	入居者の状態の変化に応じて、医師・看護師から病状の説明が行われ、今後のリスクや対応について指示が出されている。事業所として、職員として何が出来るかをプラン化し、家族の考えも聞き取り、方針の共有を図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修を看護師とともに行っている。 また日頃より初期対応指導を看護師より受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等計画に基づき実施予定。 コロナ禍のため集団での訓練実施は行わず、避難経路確認、連絡方法、消火器点検、夜間対応のシミュレーション等を行っている。	夜間対応シミュレーションが実施され、消防への通報システムや緊急連絡網の確認などが行われている。地域の消防担当の町会長の協力を得ながら、火災だけでなく地震などにも備え、地域の高齢者の受け入れなど協力体制も整えられている。	夜間対応シミュレーションを行い、一つ一つ細かな対応がされています。実際の場で確実に活かせるように職員が身に付ける取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時には特に、日頃より本人の自尊心に配慮した言葉かけが心がけている。	トイレや入浴にはさりげない誘導、着替えは居室で、入居者が自分の希望の服を選ぶなど、プライバシーの確保と一人ひとりの尊重が図られている。また、朝の起床や整容なども入居者のペースで行うよう支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアや作業を共に行いながらコミュニケーションをとり、思いを表出できるように心がけている。また表現の難しい利用者様には、選択肢をいくつか用意する等の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況を見ながら本人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を伺いながらヘアカットのタイミング等を家族へ連絡し調整している。更衣も自分で選べるようお声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあつた食形態を提供し、皆で食事がとれるように心掛けている。また、片付け職員と共に役割分担をして行っている。	おやつレクやカレー・シチュー作りは恒例で、入居者も野菜を切ったりと参加され、「食べる意欲」を大切に支援が行われている。また、食事形態なども、それぞれに合った形で提供され、自力でおいしく楽しく食べることを重視されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェック毎日行い、体重変化を確認している。状況によって看護師や栄養士と検討し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。月に2回、歯科衛生士の指導を受け、その人にあつた口腔ケアを介助、声掛け、仕上げを行っている。義歯は、夜間預かり洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、ADL状況の把握に努め、可能な限りトイレで排泄できるよう介助している。また、行動の変化を見極め、トイレに誘導するよう声掛けをしている。	トイレ排泄を基本に、おむつ使用の入居者でも体調を見て、トイレでの排泄誘導がなされている。また、便通を整えるためにヨーグルトなどの食べ物をおやつを取り入れ、自然な排泄を目指し、自立支援に繋がられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い看護師と連携を取り、状況によっては下剤を服用している。できるだけ薬に頼らないよう飲み物の工夫をし運動を心掛け、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入る回数やタイミングを柔軟に対応、介助を行っている。季節によって菖蒲やゆずを使用し、リラクセスが出来るよう援助している。	週2回の入浴を基本に、皮膚疾患がある場合は回数を増やすなどの対応がとられている。職員と1対1の個浴で、職員が二人対応で湯船に入っていたり、入浴中は話を聴いてあげたり、歌を歌ったりして楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンの把握に努め、心身の状況を見ながら午睡の声掛けを行っている。また、生活リズムが崩れないよう室温や照明などに配慮し、夜間にゆっくり眠れるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル、服薬箱のそばに服薬情報を常備。服薬時の様子、症状変化をすぐに看護師に報告している。内服の変更は、その都度看護師から指示があり、申し送り、記録にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好、能力に合わせて家事作業の役割を持って行ってもらえるよう声掛けを行っている。レクリエーションやゲーム、体操を提供し楽しみや気分転換、達成感を実感してもらえるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や意向を確認し散歩に出るようにしている。行事の一環で花見、地域活動の参加などの外出も行っている。家族援助の外出も行っているが、コロナ禍のため今年度は中止している。	コロナ禍で行動が制限される中、少しでも外に出ることに積極的に取り組み、敷地内に椅子を出して桜の花見をしたり、4階にウッドデッキで富士山を眺めて楽しんでいる。また、車でドライブし、車窓から花や風景を眺めるなどの支援も行われている。	制限が少しずつ緩和される状況から、今後は職員の意見やアイデア、入居者・家族の希望を取り入れながら、外出支援の頻度をあげていくことに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや装飾品などの買い物は少人数で出かけている。 コロナ禍のため、今年度は職員の代行を含め最小限の買い物にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのやりとりとして電話の取次ぎの援助はしている。 希望によりビデオ通話ができるように準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れるように努めている。 また、清潔に過ごせるよう掃除、消毒を行い安心して生活できる環境づくりを心掛けている。	入居者が動かれるところには物が倒れないようにする、壊れやすい物は置かないなど安心、安全な共用空間作りが行われている。リビングで談笑しながら寛がれる姿も見られ、清掃などにも入居者が参加して一緒に実施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はどこで過ごしても自由な環境を作っている。好きなことが行えるよういくつかのレクリエーション等を準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたもの、思い出のもの等をご持参いただくよう声掛けを行っている。 家具等の配置は家族と共に検討し、安心し落ち着いて過ごせる環境づくりを心掛けている。	子供達からプレゼントされた写真、使い慣れたテーブルや椅子など、それぞれ思いの込められた物が自由に持ち込まれている。居室での個々の生活ペースが尊重され、居室にいてもフロアに出ることも共生されず、居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力や心身状態、性格等を考慮し生活導線に配慮した家具配置を行っている。 更に、角にはクッション材を張るなど危険防止に心掛け、共有部分にはトイレの表示を貼るなどの工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームえぶりわん鶴瀬Nisi

目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で地域とのつながりが少なくなっている。今後様子を見ながらではあるが、地域の方々と一緒にできる行事等への参加を積極的に行きたい。	桜の花見を公園等に行って行きたい。	近くの公園に順番に全ご利用者を対象に出掛けて行き、公園で遊んでいる子供たち(近くの第6保育園児等)や高齢者の方との交流をしました。	1ヶ月
2	2・20	法人主催のたくみ祭は、地域の方々への日頃の感謝と今後のかかわりを含めて共存していきたい希望を込めて開催したい。互いに助け合う努力をしていきたい。	法人主催のたくみ祭にご家族や地域の方々の参加を予定しているので、地域交流の場作りとしたい。	法人が丸10年目になり、今年は10回目のたくみ祭を迎える。その祭りをご家族や地域の方を含めた交流の場として位置づけて行きたい。こども食堂のご利用者を含むボランティアさんの参加で遊びのブースを担当してくれることになり、ゲーム作りや飾りつけ、その他遊びの準備をして下さることになった。直接ご利用者の方には、盆踊りや屋台を楽しんでもらい地域交流をしていきたい。	2~3ヶ月
3	2・20	2年間中止となったこともあり、町会とのコラボをどのように実現できるか。	町会主催の餅つきイベント(11/23)を今年こそ実施していきたい。その日に向かってご利用者様と職員一同で何ができるのかを考案し実行に移せるよう努力していきたい。	町会長との話の中で「今年はぜひ餅つきをしたい」と。ご家族との参加や地域住民との交流を深める為の餅つき等を通して、各職員の力を合わせて安全、安心して実行できるように準備をしていきたい。	2~3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。